コロンビア定期報告（８月の内政・外交）

８月の内政･外交の主な動きについて以下のとおり報告する。

I 概要

【内政】

●１日　マルティネス新検事総長の就任

●３日　ウリベ前大統領による和平合意反対運動の開始

●３日　国民投票実施手続等に関する発表

●５日　双方向停戦及び武装放棄に関する詳細手続の合意

●１０日　パロディ教育大臣に対する辞任要求デモ

●１２日　和平特別裁判所判事の選出方法に関する合意

●２４日　ＦＡＲＣとの和平交渉の最終合意

●２５日　和平最終合意文書の国会提出

●２９日　ＦＡＲＣとの双方向停戦の開始

●２９日　パロディ教育大臣の国民投票賛成票キャンペーン弁護人としての指名

●２９日　和平合意に関する国民投票の公示

【外交】

●１日　米・コロンビア・ハイレベル対話（於：米国）

●２～３日　シュナイダー＝アマン・スイス連邦大統領の当国訪問

●４日　オルギン外相のベネズエラ訪問

●９～１５日　国連政治ミッション派遣のための事前調査

●１０日　エクアドル外相の当国訪問

●１１日　サントス大統領のベネズエラ訪問

●１６日　オルギン外相のメディーナ・ドミニカ（共）大統領就任式出席（於：ドミニカ（共））

●２３日　シュルツ欧州議会議長の当国訪問

●３１日　ローマ法王による和平特別裁判所判事選定委員会への参加辞退

Ⅱ 本文

【内政】

１　マルティネス新検事総長の就任

　１日，マルティネス新検事総長が就任した。就任に際し同検事総長は，近年の５万６千件の汚職告発事案に対して，検察庁はわずか１６００件の有罪判決しか達成できなかったとして，汚職対策に全力を挙げること及びＦＡＲＣ国内外の資産につき調査する意向を示した。

２　世論調査

　１日発表されたDatexco社の世論調査においてサントス大統領の支持率は３１％となった。また，同社により実施された和平合意に関する国民投票についての世論調査結果は以下のとおりであった。なお，日付は調査日。

８月　２日：賛成２７．０％，反対３５．９％

８月１８日：賛成３１．５％，反対３０．１％

８月２４日：賛成３４．０％，反対２９．２％

８月２５日：賛成３９．２％，反対２７．７％

３　ウリベ前大統領による和平合意反対運動の開始

　３日，ウリベ前大統領は和平合意に関する国民投票において和平合意への反対票を投じるよう呼びかけるキャンペーンを正式に開始する旨発表した。ウリベ派は本件につき，これまで，棄権するキャンペーンをするか，反対票投票キャンペーンをするか態度を正式決定していなかった。

４　国民投票実施手続等に関する発表

　３日，サントス大統領は国民投票に向けた日程につき発言し，憲法裁判所による完全な判決発表が近々予定されており，その判決により，和平最終合意正式署名の前から，最終合意の事実のみにより，国民投票実施手続が開始可能となる旨述べた。

５　双方向停戦及び武装放棄に関する詳細手続の合意

　５日，政府とＦＡＲＣは，双方向停戦及び武装放棄に関する手続の詳細につき合意した旨発表した。

６　パロディ教育大臣に対する辞任要求デモ

　１０日，国内主要都市においてパロディ教育大臣の辞任を要求するデモが行われた。同大臣は，学校教育施設において同性愛者に過剰に配慮する政策を推進しようとしたとされており，「人は男か女に生まれるのではなく，性的アイデンティティーは文化によるものである」とするイデオロギーに基づく小冊子が教育現場に配布されたこと等が発端となった。

７　和平特別裁判所判事の選出方法に関する合意

　１２日，政府とＦＡＲＣは，和平特別裁判所の判事選出方法につき合意した。合意された方法は，ローマ法王，国連事務総長，最高裁判所等により構成される選定委員会を設置し，同委員会が，１８名のコロンビア人判事及び４名の外国人判事を指名するというものである。

８　和平最終合意

（１）式典の概要

　２４日，キューバのハバナにおいて，コロンビア政府とＦＡＲＣとの和平最終合意がなされ，式典が開催された。

　和平交渉の保証国となっているキューバとノルウェーの和平交渉担当大使が，政府とＦＡＲＣとの共同声明第９３号を読み上げ，ウンベルト・デ・ラ・カジェ政府側交渉団長及び（通称）イバン・マルケスＦＡＲＣ側交渉団長が和平最終合意文書に署名した。

　同共同声明は，「コロンビア共和国政府とＦＡＲＣは，その実施により５０年以上に亘る武力紛争に最終的な終止符を打つこととなる紛争の終結及び安定的かつ永続的な平和構築のために，本件最終合意に署名することに合意した。」と述べている。

（２）和平最終合意文書の概要

　和平最終合意文書の概要は以下のとおり。

ア　構成

・１点目の課題：総合農村開発

・２点目の課題：政治参加

・３点目の課題：紛争の終結

・４点目の課題：違法薬物問題の解決

・５点目の課題：犠牲者

・６点目の課題：実施，検証及び承認

・紛争の終結手続の詳細

・憲法暫定条項等の法的手続

・合意実施のための特定個別の立法措置

・恩赦及び特別刑事手続

・和平当別司法制度における事務局長の選出方法

・武装放棄プロセス実施手続

イ　特筆される内容

　最終合意の大部分は，これまでの諸課題に関する部分合意を踏襲しているが，特筆される内容としては，ＦＡＲＣ元兵士の隔離・集住地域の設定数の変更（２２の農村暫定地域及び６の野営地となった），２０１８年及び２０２２年の国会選挙における上下両院それぞれの最低５議席のＦＡＲＣへの保証，及び刑罰については，「自ら事実を認めれば５～８年間の自由及び権利を制限される刑。同時に，インフラ建設や地雷除去活動，犠牲者捜索への参加等の修繕・補償活動に従事する。」とされたこと等であった。

９　和平最終合意文書の国会提出

　２５日，国会においてサントス大統領は和平最終合意文書（完全版）を提出するとともに，国民投票実施日を通知する書簡を提出した。その際，サントス大統領は，国民投票の実施日は１０月２日の予定である旨述べた。

　サントス大統領はまた，国軍最高司令官として，ＦＡＲＣとの双方向停戦を８月２９日の午前０時より開始するよう命令を下した旨述べた。

１０　パロディ教育大臣の国民投票賛成票キャンペーン弁護人としての指名。

　２９日，サントス大統領は，国民投票に向けてパロディ教育大臣を賛成票の弁護人として指名した。その役割は，市民運動の促進及び和平合意内容が歪曲されて批判されることを防ぐこととされている。

　パロディ教育大臣は１０月２日までの間教育大臣としての職務を停止し，カルドナ次官が大臣代理となる。

１１　和平合意に関する国民投票の公示

　２９日，国会において和平最終合意に関する国民投票公示要請が可決された（上院：賛成７１票，反対２１票，下院：賛成１２７票，反対１５票）。これを受け３０日，サントス大統領は政令を発出し，同国民投票を公示した。

　公示内容は，２０１６年１０月２日に国民投票を実施するとのものであり，国民投票における質問文は「あなたは，紛争終結及び安定的かつ永続的な平和構築のための最終合意を支持しますか？」となった。

【外交】

１　米・コロンビア・ハイレベル対話

　１日，第６回米・コロンビアハイレベル対話（政策協議）が米国で開催され，オルギン外相及びケリー国務長官が共同議長を務めた。ポストコンフリクトのための農村開発，バイリンガル教育，学術交流，スポーツ・文化外交，クリーン・エネルギー，気候変動，海洋保護，イノベーション，小規模起業促進，観光，人権，科学技術等に関する協力等につき協議された。

２　シュナイダー＝アマン・スイス連邦大統領の当国訪問

　２～３日，シュナイダー＝アマン・スイス連邦大統領が当国を訪問し，３日，サントス大統領と会談した（オルギン外相同席）。同会談において，インフラや競争力強化に関する協力につき協議された。

　また，両大統領立ち会いの下，オルギン外相とクンツ駐コロンビア・スイス大使の間で，両国民の短期滞在査証免除協定，両国間の航空接続性促進に関する文書，及びスイスによる合計２，２００万ドルの各種プログラム及び基金への追加拠出に関する文書等が署名された。

３　オルギン外相のベネズエラ訪問

　４日，オルギン外相がベネズエラを訪問し，ロドリゲス・ベネズエラ外相及びマドゥーロ・ベネズエラ大統領と会談し，国境問題に関して協議した。

４　国連政治ミッション派遣のための事前調査

　９～１５日，和平最終合意後にＦＡＲＣが集住予定の農村暫定地域及び野営地となる場所において，政府及びＦＡＲＣとともに国連政治ミッション派遣の事前調査が実施され，国連事務総長に対して報告書が提出された。

　これを受け１９日，国連事務総長は，国連安全保障理事会に対して同報告書を提出した。国連政治ミッションは４５０名の要員から構成される予定。

５　エクアドル外相の当国訪問

　１０日，オルギン外相はエクアドル国境付近のイピアレスでロング・エクアドル外相と会談し，移民問題等につき協議した。

６　サントス大統領のベネズエラ訪問

　１１日，サントス大統領はベネズエラを訪問し，マドゥーロ・ベネズエラ大統領と会談した（両国外相同席）。同会談後，両国の国防相，商工相，運輸相，厚生相及び鉱山相が参加し，拡大会合を実施した。会談後，サントス大統領は，暫定的かつ段階的に国境を再開することに合意した旨述べた。

　同会談における合意内容は，８月１３日より国境５カ所において午前５時より午後８時まで歩行者のみ通過を認めるとのものであり，車両及び貨物の通過については段階的に検討されることとなった。また，国境地帯住民用の身分証が発行されることとなった。

７　オルギン外相のメディーナ・ドミニカ（共）大統領就任式出席（於：ドミニカ（共））

　１６日，オルギン外相は，メディーナ・ドミニカ（共）大統領就任式に出席した。

８　シュルツ欧州議会議長の当国訪問

　２３日，シュルツ欧州議会議長が当国を訪問し，サントス大統領と会談した。会談後の記者会見においてシュルツ議長は，ＥＵ全体として，合計２，０００万ユーロのポストコンフリクト支援をする予定であり，欧州投資銀行から直接または間接的に合計４億ユーロの支援をする予定である旨述べた。

９　ローマ法王による和平特別裁判所判事選定委員会への参加辞退

　３１日，フランシスコ・ローマ法王は，和平特別裁判所判事の選定委員会に参加することを断った。

（了）